

## PM資料ガイド

項目	Project Risk Management	Rev.	年月日	作成
	プロジェクト リスクマネジメント	0	01/03/11	挟間啓之
対象	一般			
視点	基本解説			

### Project Risk Management : プロジェクト リスクマネジメント

#### 1. 広辞苑では

リスクとは 危険 保険者の責任 被保険者と記載されている。

#### 2. リスクマネジメント

1940年代に米国保険業界で生まれリスクを確率的に扱うマネジメント手法である。危険や冒険に対して損失や損害の発生する確率と利益や期待効果を得る確率を比較し、損失を最小限にして最大の利益を得る手法である。プロジェクトマネジメントにおいてもこの手法が使われる。

#### 3. プロジェクトのリスクマネジメントの定義

1996年にアメリカのProject Management Institute(PMI®)が改訂発行した「A Guide to the Project Management Body of Knowledge(PMBOK®)」(訳:エンジニアリング振興協会)ではプロジェクトのリスクマネジメントは以下のように定義している。

プロジェクトのリスクマネジメントには、リスクに対する特定、検討、検証、対策案の計画・実施が含まれる。プロジェクトのリスクには好ましい結果を招く可能性と、好ましくない結果を招く可能性を含み、PMBOK®では好ましい結果を最大限に、一方好ましくない結果を最小限にとどめることをリスクマネジメントと位置付けている。

PMBOK®ではリスクマネジメント手法について、以下の4つのプロセスに分類している。

##### 1) リスクの特定

プロジェクトに起こると予想されるどの事象が、リスクとしてそのプロジェクト業務に影響を与えうるかを特定し、その特定を文書化する。特定項目は起こりうる確率・及ぼす影響・発生予想時期・繰り返し発生する頻度が必要。

##### 2) リスクの定量化

リスクに結びつくであろう事象並びにリスク間の相互作用がどの程度の確率で起りうるか、そしてどの程度の影響力を持つかを評価・定量化する。リスク定量化には確率と影響額での金額換算やスケジュールシミュレーションすると良い。識者の判断も参考となる。

### 3) 対応策の策定

好機を最大限にし、脅威を最小限に留めるための方策を策定する。脅威を最小限にする方法として外注によるリスクヘッジ、代替案、保険、予備費等がある。

### 4) リスク管理

プロジェクトの全遂行期間中を通じて、リスクポジションの変化に的確に、継続的に対応してゆく。リスク管理の手順をリスクマネジメント計画書としてまとめ、リスク発生時は計画に従った対応策や計画書を更新して実施する。

具体的な技法やツールはPMBOK®を参照。

リスク管理については多くの本で記載されているが、**是澤輝昭著、「プロジェクトの進め方が良くわかる本」、実務教育出版、2000**ではリスクを回避する実務的な方法として以下のように述べている。

- 1) プロジェクトは障害物競走のようなものである。先見して予防することが大事。
- 2) 手法として見落としはいけない重要事項はチェックリスト方式で確認する。
- 3) 確認は現場・現物で行なう。
- 4) 「悪い知らせは早く」の職場習慣をつくろう。
- 5) 「心配型」「批判型」の人の指摘をチェックリストかわりに使おう。
- 6) 「かけがえのない人」をつくらない。なんでもバックアップが肝要。
- 7) 「質の仕事」を「量の仕事」に切り替える。
- 8) プロジェクトメンバーの元気をチェックする。元気がないとリスクが増える。
- 9) トラブルはカルテとして時系列的に記録し、再発防止に利用。
- 10) 契約書の重要性を認識し、特に違約条項を明確にする。
- 11) 外注先の責任は発注元の責任。発注先を厳選しよう。

あたりまえの事のようにであるが、実行は難しい。このことからすでにリスクが生まれている。

以上

#### 参考文献

エンジニアリング振興協会プロジェクトマネジメント部会訳、  
「プロジェクトマネジメントの基礎知識体系 (Pmbok Guide) 和訳版」、1997  
**是澤輝昭著、「プロジェクトの進め方が良くわかる本」、実務教育出版、2000**